

何でも語るコーナー

第二回:木材と人間

木材と人間

05/5/4

今、木材がたまらない程ほしい・・・

OIDUSは昔から工作好きだった。小学校の頃は、“電撃いらいら棒”を自作したりしてた記憶がある。でも、工作を”世界でひとつだけのものを作ること”と捕らえだしたのは、実はつい最近のことなんだよね。

世界で一つだけのものを作るんなら、世界でもっとも表情のある”自然の美”、木材を工作に使いたくなってくるのも当然の成り行きというものだ。ただ、贅沢は止まらない。ありふれた素材ではいやなんだ。レアな黒檀などがほしいんだよね。自作したラックとか、家具とかを作って部屋を潤したいんだけど、なんせ、時間がなすぎます。

僕の部屋にはベランダがあったりする。そのベランダ用に収納ラックを・・・机に備え付けの、荷物置き場と化したラックを、引き出し式のラックに改造する計画などがある。だからね、優先するのはこちら。今は、ほとんどの家具作りをお預けしています。

簡単に作れる小物や、楽器作りなどをするのなら時間はあるのだが、あいにく所持金が0なので木が買えない。いくらかは口ハで手に入るのだが、やはり切れ端とか、何かの製品などを切って調達するかしらないといけない。ということで、切実にお金の大切さを身にしてみた今日この頃。

さて、そんな僕が28日だかの「劇的ビフォーアフター」で感じたことがある。この日見たのは、とある一軒家。家具などの配置が家を狭くしていたり、階段を上るのが危険だったり、困っていたそうです。いや、困っていたから28日(←もうすでに決めつけ)の番組があったわけです。

この番組、プロモデラーの金子さんが、壊す前の家をジオラマにして依頼者に思い出としてプレゼントする、という粋な企画があったので、初回だけ見た。正直、この頃は工作への情熱が下火になっていて、見ていなかった。だが、今日はなぜだか見たくなった。

狭い家を広くするのは無理だ。だから、狭くしないようにがんばろう、というリフォームは理解できるが、実際どうやるか、という話になると、やはり建築士とかが、計算に基づいて、感性と知恵を交えて行わなければならない。素人仕事では住み心地という要素には、つながりにくいだろう。

こういう番組を見て思うのは、木造住宅ってよく2階より上をささえられるなあ、ということです。木造建築の施工現場はよく見る光景ですが、中をのぞくと、やはり木で作っている。木を釘で止めている。木で2階を作っている。凄い一言です！日本は木の文化といわれますよね。建築の優れている我が日本国は、地震や伝統の継承や、知恵の継承なり発展なりを身近に行ってきました。

そして、そこにはいつも木があったのです。今でこそ、木が見直されたりしていますが、1990代とか、平成、昭和の経済成長で得たモノヅクリの技術も、木があったからではないでしょうか・・・なんて、僕がいまさら言うことでもないか・・・。木の文化が発展していたからこそ、新技術の良さを常に木と比べて、新しい技術を得て、日本の高度経済成長なんかを生んだのだと思います。

そんな僕達、宇宙船地球号の乗組員達は、木を切ったら木を植える、って事に対してなんて思ってるだろうか？別に、全員が植樹を行うというのは難しいと思います。だって、林業も農業と同じように、消費者と生産者の構造をとるわけですからねえ。

冷酷に言えば、使う側は使う側、作る側は作る側、ということになるのだが、でも自然への感謝は絶対に忘れてはいけません。ぽんぽん裸の土地に苗を植えても、土壌改善をするか、土壌改善を目的の一部とするなりしないと、もとのあった自然には戻らないらしい。それに、壊れてしまった自然は元には戻りにくい。

じゃあ、植えないより、植えたほうが、環境の改善につながるなどの意味はあるが、でも、一番良いことは、無駄に木を切らないことなんだって、結局はここに行き着く。だから、誰がどう考えようと、自然を大切にしようよ、って言う結論にたどり着くわけなんだよね。

今までの景観を取り戻せるくらい、元の形に戻していくことができるか、人が自然と共存できていた頃に戻せるか。あるいは、戻ったとしたら・・・同じ過ちを犯さなければ、平和だった頃の生活を取り戻せると思います。

家だビルだって、建てられたりしてしまっちは、なかなか難しいだろう。私有地になってしまったとか、国がうるさいとか、いろいろな問題があるでしょう。でも、まずは市役所などへ相談して、地域の拠点となる学校などを据えて住民が一体となって取り組むのが理想でしょう。でも、そうそう簡単にはできないんだよね。川を見たって、いくつもの町に渡ってたり、上流に繁華街があったり、それこそ地域の協力は不可視です。

環境を良くするというのは、もちろん、人間の行った事の代償を払うことにもつながるのだが、その後の自然と人との共存にもつながっていくべきであると思う。それは、環境破壊が起こる前の生活を見習うのが一番の近道だろう。今の自然が局所的、あるいは全体的に壊れかけている事、昔の人が行ってきた事、考えることはいくつも有る。でも、人間一人一人が自覚を持って、自然とつきあう事を考えれば、環境は良くはなっても、悪くはならないと思う。

でも、今はまだ無理な話だ。今までの生活を変えることに抵抗があっても、しょうが無い。だから、学校でこそ、自然と人との関係や、これから残された課題などをもっと教えるべきではないのだろうか。小学校だけでなく、中学校、高校、大学、それだけでなく、国がきちんと方向を示して。高校で環境の事、これからの課題などを小学校の社会や生活の授業のようにやった記憶は無い。中学でこそ、ボランティアという形で少しだけ触れたくらいだ。勉強することが増えたって、自然の元で暮らしているなら、みんなが勉強していく必要が、もっとあるのではないだろうか。興味の有る人だけが自ら学ぶようなことではないと思う。生きていく以上は。

と、今日思っちゃったです

記事の作成者

この記事は、管理人のOIDUSが作成しました。

このページへのリンクはフリーです。転載も許可しています。転載の際は内容を変えないようお願いいたします。また、このページを利用して何かおきても、作成者のOIDUSは一切、責を負いません。自己責任でご利用くださいネ！（なんと無責任な・・・）

この記事に関する質問、苦情、要求などがございましたら・・・

oiduscom@yahoo.co.jp

宛てにメールをお寄せください。